

「南部地域子育て支援拠点施設整備」基本設計（案）

令和8年8月

延岡市

1. これまでの経緯

本市では、0歳から18歳までのこどもや子育て世帯に寄り添い、地域の大人も関わる中で、こどもの成長や発達に応じたきめ細やかな支援を切れ目なく行う「南部地域子育て支援拠点施設」の整備を進めています。この施設は、天候に左右されず安心して遊べる屋内外の遊び場や、子育て世帯が集い交流できる場所、次世代の育成の重要性など、多くの市民から寄せられた要望をもとに計画されたものです。

近年、少子化の進行や子育てを取り巻く環境の変化により、地域のつながりの希薄化や核家族化による子育て世帯の孤立、女性の社会進出に伴う保育ニーズの増加、経済的困窮世帯におけるこどもへの貧困の連鎖など、さまざまな社会課題が顕在化しています。

こうした背景から、子育て家庭への支援の重要性はますます高まっています。国においても令和5年4月に「こども基本法」が施行され、すべてのこどもが健やかに成長し、幸福な生活を送ることができる社会の実現を目指しています。

「南部地域子育て支援拠点施設」は、令和5年度に基本構想を、令和6年度に基本計画を策定する中で、アンケート調査や関係者ヒアリング、近隣住民とのワークショップ、小中高生からの意見聴取などを重ね、施設の立地や計画内容を検討してきました。

令和7年度からは、これらを踏まえながら、施設配置や平面計画、構造・設備計画の具体化をはじめ利用方法や運営面についても検討を重ねた基本設計を策定しました。

基本構想、基本計画については、下記二次元コードからご覧いただけます。

【令和5年度策定 基本構想】



【令和6年度策定 基本計画】



2. 基本設計の方向性

基本設計においては、基本計画で示した「子育て支援機能」「こどもの居場所機能」「地域交流機能」の3つのゾーンが、各空間の独自性を保ちながらも連携し、互いに補完し合う構成や、こどもの多様な活動を行う多目的ホールが3つの機能をつなぎ、象徴的かつ中心的な役割を果たすというゾーニングの方針は、基本計画の根幹を成すものとして、今回の基本設計にも踏襲しています。

また、「施設の中央に多目的ホールを配置し、2階に利用年齢が高い小学生～高校生までの第三の居場所となるスペースを設ける」といった諸室のゾーニングについては、今回の基本設計において、建物の構造を以下に述べる理由により2階建てから平屋建てに変更した後も、ベースとなる考え方として引き継いでいます。

基本設計では、以上のような基本計画で示した方針や要件を念頭に、建設資材等の物価上昇や社会情勢の変化、現地の状況や隣接地に整備される市営住宅計画、そしてこれらが与えるコスト的な要因と目指す施設の在り方とのバランスなどを考慮するとともに、同類施設の運営状況なども踏まえつつ、利用者が使いやすい施設となるよう、基本計画をさらに精査・発展させるため必要な見直しを行っています。

発展的に見直した部分は下記のとおりです。

1) 施設延べ面積の見直し

整備コストについては、基本計画時点で総工事費9億8,200万円を見込んでいましたが、基本構想・基本計画に沿って設計図面を作成し、「延べ面積 約1,400㎡ 2階建て」として概算建設費を改めて算出したところ、14.8億円と物価上昇や社会情勢の変化を受け約1.5倍の整備コストがかかる試算となりました。

このため、基本構想の基本理念や機能は維持しながら、利用時間の異なる諸室を一つにまとめるなど「延べ面積 約1,250㎡ 2階建て」、「延べ面積 約1,100㎡ 平屋建て」と段階的に工夫を重ねて検討を行い、総工事費の圧縮に努めた結果、概算建設費11.8億円、「延べ面積約1,100㎡ 平屋建て」としたところではあります。

2) 配置計画の見直し（隣接する市営住宅を考慮した敷地利用の見直し）

詳細な敷地測量の結果、施設と市営住宅の距離が近いことが判明し、運動場を施設の北側とした基本計画の配置では、市営住宅との緩衝帯としての役割が十分に確保できず、逆に住宅側へのプライバシーや騒音への配慮が必要となったため、運動場の位置を北側から南・東側へ変更しました。

その結果、冬季でも日当たりの良い運動場を確保できるほか、住宅側へのプライバシー配慮や騒音対策、運動場での活動の視認性向上、中高生用・キッズ用の利用運動場の分割など、施設機能の向上が図られます。

3) 諸室の配置の見直し

延べ面積約1,100㎡平屋建てへの変更に伴い、必要な機能や利便性を確保し、施設全体の効率的な利用や管理を考慮して、各諸室の面積や配置を見直しました。

【中庭】

中庭については、キッズルーム利用者向けの運動場にベンチ等を配置するとともに、夏場の暑い日でも利用できるよう可動式日よけやミスト設備を設置します。

また、中高生向けの運動場を含め、年齢や用途に応じた遊び場を確保します。

【事務室】

来館者や車両の動きを把握しやすく、安全管理や施設運営が円滑に行えるよう、敷地の車両出入口付近の西側に配置します。

【エントランス】

敷地全体の視認性や安全性に配慮し、施設の正面入口を南側に変更します。

来館者にとって分かりやすい配置とするとともに、キッチンカー出店などイベント時においても円滑な動線を確保できるような配置とします。

【キッズルーム】

明るく安心できる場所となるよう、メインエントランスから近く、多目的ホールや専用運動場とつながる南側に配置します。室内外が連続することで、こどもたちが安全に、のびのびと遊べる環境を整えています。

【飲食スペース、会議室・研修室】

- ・日当たりのよい南東の角に配置することで、こどもたちの遊ぶ場面を見ながら飲食や会話を楽しむことを可能とします。

- ・レンジ、冷蔵庫、IH コンロ、台所水栓を備えたキッチンを設置し、お弁当などを持ってきて親子で食えることができます。

- ・イベント時にはキッチンカーと連携し、食の提供等による賑わいを創出します。

- ・2階にあった会議室・研修室は、飲食スペース内に設け、必要に応じて可動式壁で区切って使用する方法を採用することとし、地域の方や高齢者も使えるスペースを確保します。普段、会議や研修がないときは、飲食スペースの拡張部分として使用し、また、飲食スペース全体を会議室として使用することとします。

【ギャラリー、図書・学習室】

2階の吹き抜けに面していたギャラリーは、諸室の壁などを工夫して情報発信していくことで機能を維持します。

図書・学習室は、フリースペースの機能も兼ね備えたオープンに学習・交流ができる空間と、部屋を区切って学習に集中するための空間を配置します。

【ワークルーム・ミーティングルーム】

ワークルーム・ミーティングルームについては、利用時間や利用方法、空間構成などを再検討し、

図書・学習室内にあるフリースペースとの兼用に変更します。これにより、ワークルーム・ミーティングルームで想定していた機能も含め、交流や休憩、学習など多様な用途に対応できる中間領域を創出し、利用者が柔軟に活用できる空間とします。

4) 構造計画の見直し

各諸室の必要面積や機能を維持したまま、全ての機能を1階に集約することで、管理がしやすくなり、また、エレベーターや階段などの設備・空間を削減することができるため、建設コストと維持管理コストの低減に繋がります。

キッズルームの主な利用者である乳幼児親子と、図書・学習室を利用する小中高生では、主な利用時間帯が異なることから、同一フロアに配置した場合でもそれぞれ一定の利用環境を確保することが可能となります。

また、2階建て案では、建物規模や建築コストなどを踏まえ、鉄骨造での検討も進めましたが、施設規模の見直しにより延べ面積を縮小し、平屋建てとしたことで、木造でも耐久性や安全性など必要な性能を十分に確保しながら、合理的な構造計画が可能となり、効率的な施設整備が可能と判断し、脱炭素先行地域にふさわしい施設整備を目指して、木構造を採用することとします。

木構造の採用にあたっては、可能な限り延岡市産材を活用しつつ、不足する部分については県内材も含めた調達を行うなど地域材の積極的な活用を図るとともに、地域の供給体制を踏まえた設計・施工計画を検討します。品質管理や産地証明を徹底し、市内事業者が無理なく対応できる地産地消による施設整備の実現を目指します。

5) 外構計画の見直し

地盤調査の結果、敷地南側よりも北側の方が支持地盤の条件が良いことが確認されており、運動場を東・南側に配置したことで、造成や基礎工事費用の削減にもつながります。また、高い遮音・目隠しフェンスを設置せずに、市営住宅との間に植栽を設けることで、市営住宅側への遮音や視線に配慮した計画としています。

また、時間外の車両の進入等を防ぐチェーンスタンドの整備や敷地内にカメラを設置するなどし、侵入者対策を施します。

擁壁については、整備コストを踏まえ、市営住宅との一体的な整備を進めるため、十分な敷地広さを確保しつつ、間知ブロック積擁壁※1とします。

6) 管理計画・運営体制の検討

同類施設へのヒアリングを通じて、運営効率と利用者の安全性を両立する観点から、管理計画や運営体制の検討を行いました。2階建てから平屋建てに変更したことで、より効率的な管理・運営が可能となっています。具体的な内容については「12.人員配置計画」に後述します。

※1 間知ブロック積擁壁とは高低差のある土地で土が崩れるのを防ぐため、台形や六角形等のコンクリート製ブロックを斜めに積み上げて作る土留め壁のことです。住宅地や道路の斜面、河川の護岸など幅広く使われています。

3. 事業計画



- ・ 計画地 延岡市南一ヶ岡3丁目（市営住宅一ヶ岡D団地跡地）
- ・ 敷地面積 約 3,830 m²（子育てエリア 8,330 m²、うち市営住宅予定地 4,500 m²）
- ・ 延べ面積 約 1,100 m²
- ・ 構造・階数 木造・平屋建て、準耐火建築物
- ・ 高さ 約 8.5m
- ・ 駐車場台数 約 50 台（普通車30 台、思いやり 2 台、軽車両 18 台）、職員用駐車場 11 台
【標準想定】 こどもの自由利用空間として1人あたり約 2 m²、親子 2人で約 4 m²を想定したときに、親子がキッズルーム 169 m²を利用するときの最大想定家族数は約 43 家族
- ・ 管理運営体制 指定管理者制度
本施設では、以下の理由により、指定管理者制度を採用することとします。
 - ・ 指定管理者制度では、指定管理者が給与水準や人員配置を柔軟に決めることができ、また、弾力的なシフト編成などによるコスト削減も期待できます。
 - ・ 指定管理者は、その裁量やノウハウにより、イベントや自主事業の企画で、施設の特徴を打ち出すことが可能です。また、現場判断での細かなサービス改善やクレーム対応の迅速化も期待できます。同類施設の視察やヒアリング等を通して管理運営体制についての実態調査をおこなったところ、「指定管理者制度」による運営の事例が多い状況です。
- ・ 開館時間 10 時から 17 時（予定） ※管理運営状況次第では変更の可能性があります
コアタイムを上記とし、病後児保育事業などは保護者の出勤時間等を踏まえると 7 時からの受け入れ、高校生等の放課後の学習時間を考慮すると、19 時までの開館を想定するなど、利用者ニーズに沿った運営について、今後指定管理者とも協議することとします。

- ・ 休館 週休一日制（予定）
安全確保や衛生維持のための設備点検・清掃作業のため、週休一日制を導入します。
- ・ その他 大規模災害時の災害拠点としての活用
※指定緊急避難場所については、既存の指定場所（風水害など：一ヶ岡小学校内児童クラブなど、津波：ファーツリーカントリークラブ駐車場など）となりますが、大規模災害時の支援部隊の集結・生活必需品の供給拠点などとして活用します。
- ・ 利用料 原則、無料
遊び場の提供をおこなう本施設では、キッズルーム等の活動の場合は保護者の見守りと責任において利用していただくことを条件に原則無料としますが、病後児保育室や一時預かり室の利用及び子育て支援目的以外の利用については、市の条例にて利用料金を定めます。

・ 各室の概要

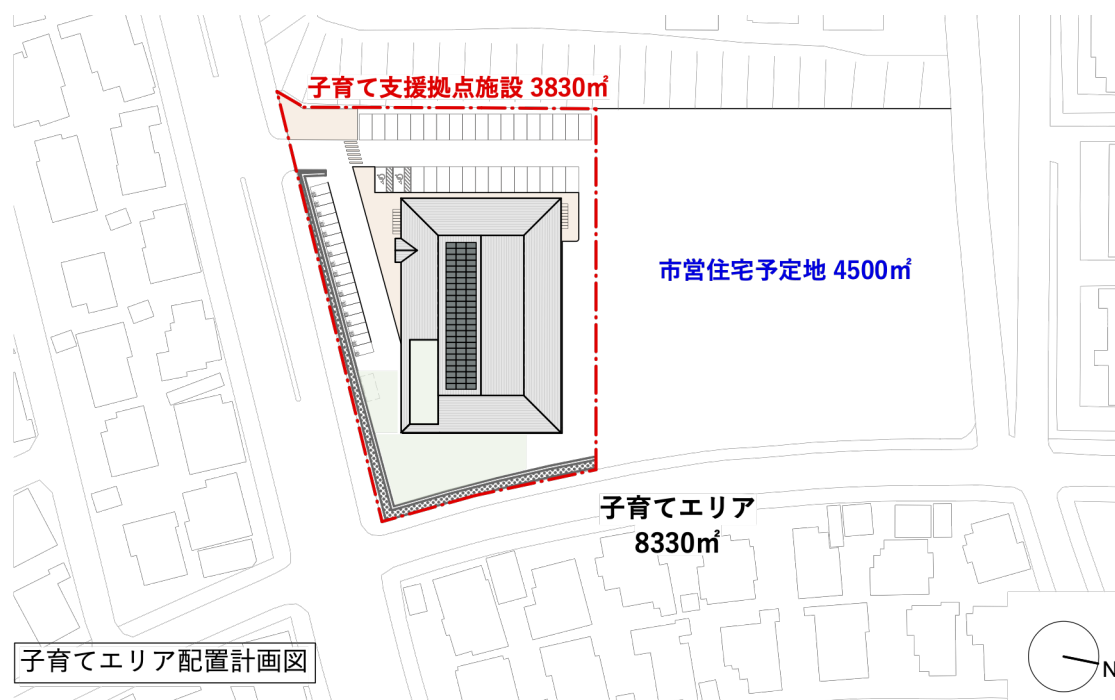
室名称（㎡）	内容・使い方	想定時間	利用料金
エントランス	・ 館内案内、子育て情報やイベント情報の発信と提供	10 時～ 19 時	—
事務室 （約 52 ㎡）	・ 受付、運営管理、子育て情報やイベント情報の発信と提供	10 時～ 19 時	—
病後児保育室 （各室 約 15 ㎡）	・ 病後児保育事業の実施 ・ 病後児保育専用（出入口、トイレ、シャワー）による感染症対策	7 時～ 18 時	有料
相談室・休憩室 （約 13 ㎡・約 10 ㎡）	・ 母子保健、療育、発達相談、ネグレクト等への相談、支援 ・ 専門員の配置による相談しやすい環境づくりや保護者カウンセリングの実施等 ・ 休憩室を兼用 ・ 静養室としての機能もあり、休憩室は横になりやすい和室を採用	10 時～ 17 時	無料
一時預かり保育室（約 26 ㎡）	・ 一時預かり事業の実施 ・ 遊び場の確保として、キッズルームと連携	9 時～ 18 時	有料
こどもの支援 ココットルーム （約 38 ㎡）	・ 学校に通いづらさを感じる子ども、心がホッとする場の提供 ・ 専門性の高い人材を配置 ・ 福祉と教育の機能を兼ね備えた支援の場 ・ 全体の指定管理業務には含めない運営を検討	9 時～ 18 時	無料
飲食スペース （約 78 ㎡）	・ レンジ等を備えたキッチンを設置し、未就学児の親子や小中学生等が集い、遊び、飲食が可能な場 ・ 自動販売機の設置	10 時～ 19 時	子育て支援目的以外は有料

多目的ホール (約 208 m ²)	・運動遊びやイベント、地域活動など、多様な用途に利用できる場 ・土足禁止、シューズへの履き替え	10 時～ 19 時	子育て支援目的以外は有料
キッズルーム (約 169 m ²)	・室内遊具を設置し、未就学児の親子等が集う遊びの場の中心 ・乳幼児が安心して過ごせる環境確保のため土足禁止	10 時～ 17 時	無料
図書・学習室、 フリースペース (約 96 m ²)	・図書室設備の充実、学習の場の提供 ・子育て情報やイベント情報の発信と提供 ・工作や交流等ができる場 ・キッズルーム利用の待合機能も兼備	10 時～ 19 時	無料
会議・研修 スペース (約 26 m ²)	・飲食スペース内に、必要に応じて可動式間仕切り等で空間を確保 ・地域団体などの利用も想定した会議スペース ・空いている時間の学習スペースとしての利用	10 時～ 19 時	子育て支援目的以外は有料
授乳室	・飲食スペース付近やキッズルーム内に設置	—	—
トイレ	・男女別や多目的トイレ、親子で入れるトイレの設置 ・便器数は平常時の利用人数を踏まえ、余裕を持った便器数を確保	—	—
倉庫	・室内、屋外倉庫の設置	—	—
運動場	・屋外の遊び場の提供、イベントでも利用を想定 ・キッズ用、中高生用の 2 か所整備 ・キッズ用に日除け、中高生用にボール遊び用防球ネットの設置	10 時～ 17 時	子育て支援目的以外は有料

※事業によって利用時間が異なりますが、シフト制などの職員配置を工夫するとともに、利用者の安心・安全に配慮した管理運営をおこなっていきます。

※利用料金の徴収について、「子育て支援目的以外」とは、使用目的が「子育て」と無関係のものを意味します。例えば、大人だけで「子育て」と無関係の会議で使用する場合は、有料となります。また、子育てに無関係の営利目的による使用はお断りする場合があります。

4. 配置計画 ※今後の検討により、一部変更が生じる可能性があります



【「子育てエリア」の創出、周辺環境の整備】

今回の計画敷地の隣接地には、子育て世帯向け優先住宅を含む市営住宅を整備し、居住機能と子育て支援拠点施設が一体となった「子育てエリア」を形成することとしており、子育て世帯が「住まい」と「子育て支援サービス」を身近に利用できる環境を整えることで、安心して子育てができる、子育てにやさしいまちづくりを目指します。

本施設は「都市再生整備計画」の一環として「一ヶ岡地区都市構造再編集中支援事業」にて整備するもので、施設を利用する方が安全に敷地内を通行し施設へアクセスできるよう、歩行者用通路を確保するとともに、車両動線との交錯をできる限り抑えた計画としています。

また、道路や公園など周辺環境も一体的に整備します。

※一ヶ岡地区都市構造再編集中支援事業

令和7年3月に策定した、持続可能なまちづくりを目指す「延岡市立地適正化計画」に基づき、都市機能や居住環境の向上に資する公共公益施設の誘導・整備などの取り組みに対し、集中的な支援を行い、持続可能で強靱な都市構造へ再編を図る事業。

子育て支援拠点施設整備を核として、滞在、交流空間の創出と、誰もが利用しやすい拠点整備を進め、子育て環境の充実や拠点支援の強化により、魅力と活気あふれるまちにリニューアルするものであり、一ヶ岡地区における公園の改修や道路の改良、子育て支援拠点施設や市営住宅建替えに併せ、公共交通の利用促進と利便性の向上のためのバスルートの変更等を予定しています。

都市構造再編集中支援事業を活用して事業を実施する場合は、都市再生整備計画を作成する必要があります。

都市構造再編集中支援事業については、右記二次元コードからご覧いただけます。



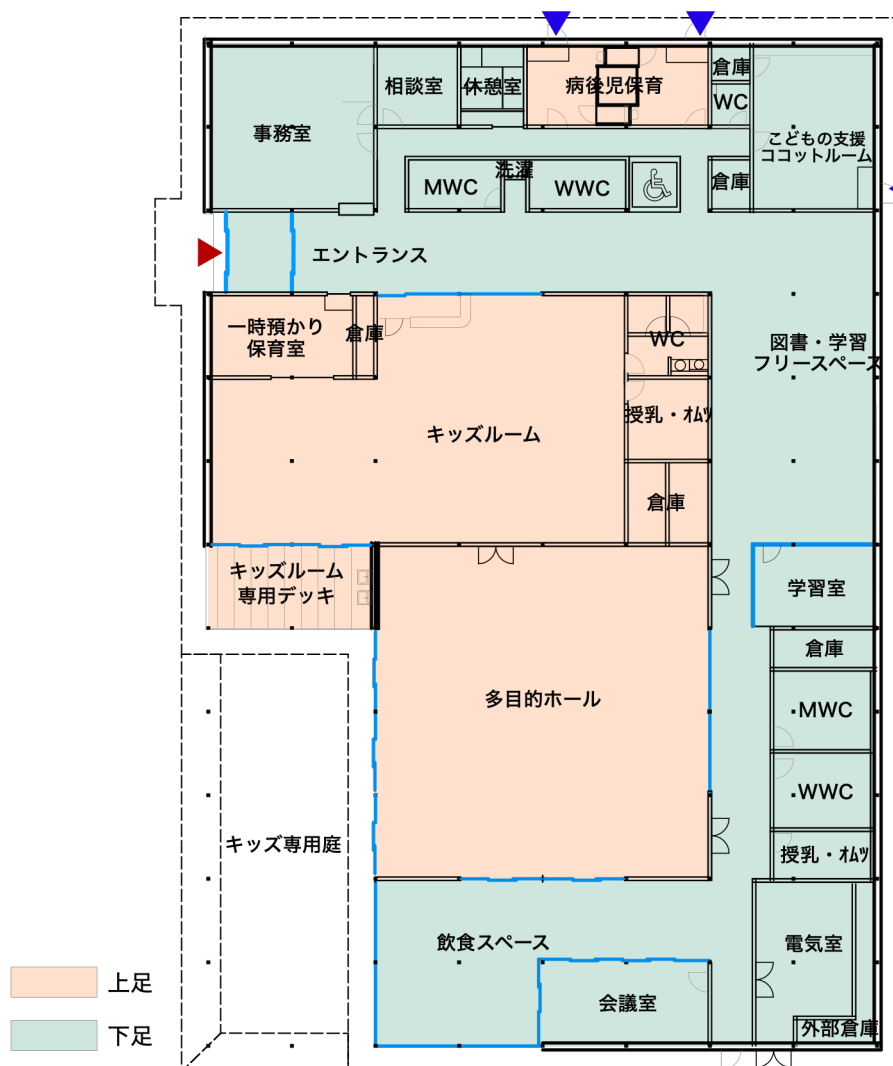
5. 平面計画 ※今後の検討により、一部変更が生じる可能性があります

(A3 別紙)

6. 上足・下足の考え方

本施設の室内は、利用者の利便性を考慮し、下足利用を基本としますが、利用用途や衛生面への配慮が必要な諸室については、室内で履き替えまたは靴を脱いで利用する計画としています。また、運動場は屋外の位置づけであり、下足で利用します。

- ・多目的ホールは、運動利用を想定していることから、ホール利用時には室内用シューズ等へ履き替えて利用します。
- ・キッズルームは、乳幼児が座ったり寝転がったりしながら安心して過ごせる環境を確保するため、キッズルーム内に設けた靴箱を利用して靴を脱いで利用します。
- ・病後児保育室についても衛生管理に配慮し、各保育室の専用出入口において靴を脱いで入室する運用を想定しています。
- ・こどもの支援 ココットルームは下足利用を基本としながら、床に座ったり寝転がったりしてくつろげるスペースを一部設ける計画とします。



7. 遊具について

基本理念「みんなが つどい つながり はぐくむ こどもの居場所（キチ）づくり」をもとに、天候に左右されず安心して遊ぶことのできる遊び場を提供するため「キッズルーム」に「遊具」を設置する計画としています。

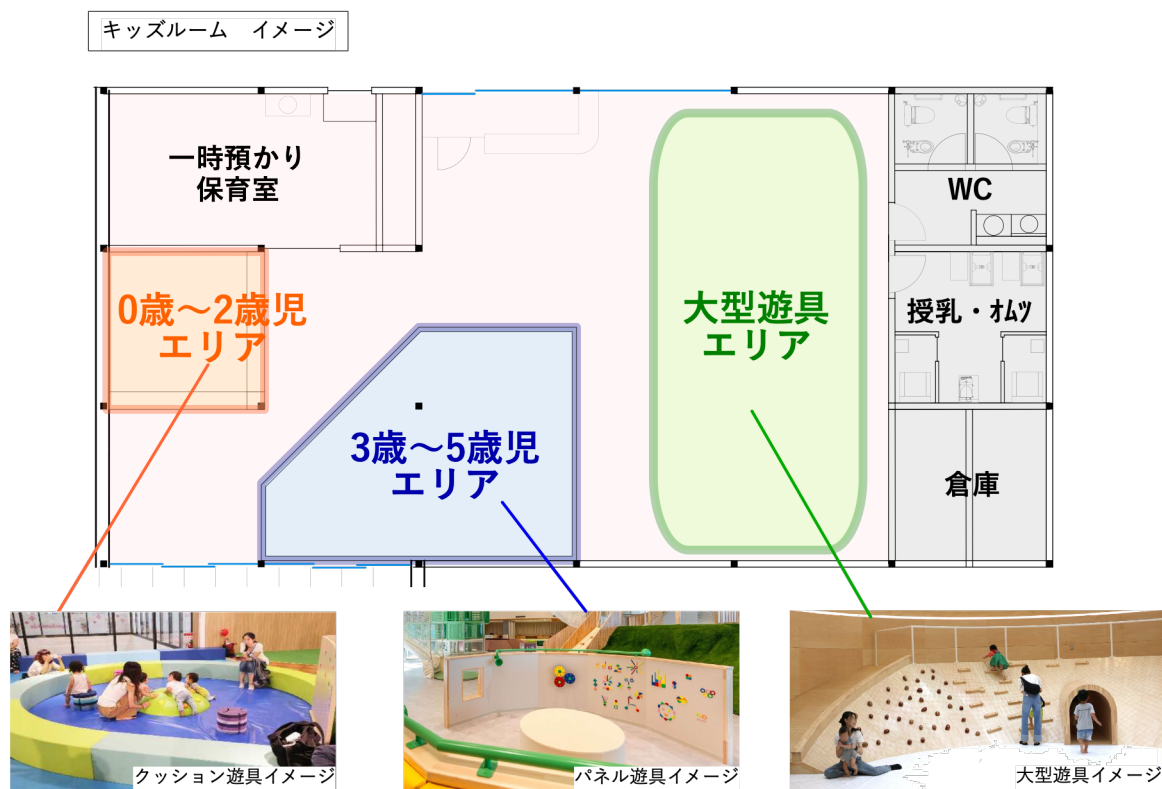
自らが考え・遊び・学ぶことができ、わくわくする「キチづくり」となるような遊具の設置について検討してきました。

基本計画での「大型遊具設置について」のアンケート調査の結果、ネット遊具やふわふわドーム、ボルダリングの設置について、7割をこえる方が「設置すべき」「あった方が良い」と回答したことを受け、設置を検討してきましたが、設置面積の問題やコスト、メンテナンス性等を考慮し、ネット遊具の設置については見直すこととしました。

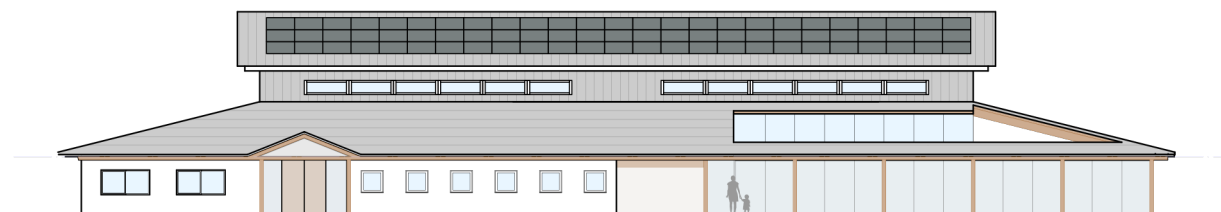
キッズルームを施設の中央に配置したことで、倉庫やWC、授乳室の上部空間を活用して、滑り台等の大型遊具を設置することも可能な計画としています。ただし、遊具の形状によっては、法規上の制約により建築コストが上昇する可能性があるため、法的な整理を行いながら、別案も含めて検討しています。

また、キッズルームは各年齢のこども達が遊ぶことができるようにゾーニングし、異年齢のこども達が同時に同じ部屋で遊ぶことによって、ふれあいや交流も生まれるような楽しく魅力ある遊び場を提供します。

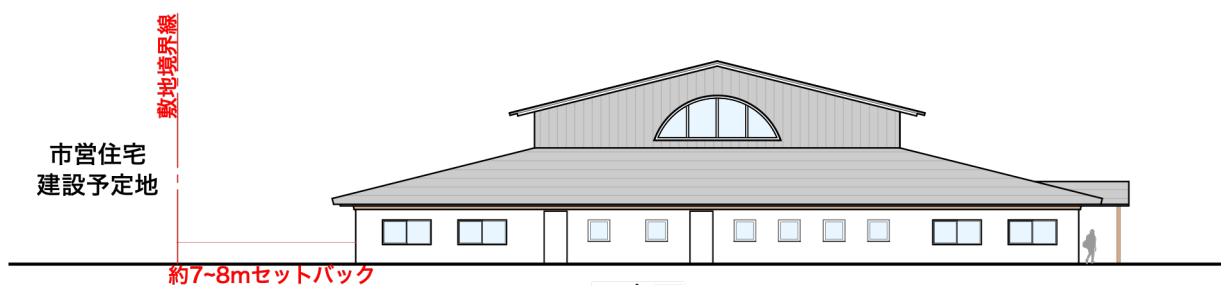
遊具については、さらに詳細な検討が必要ですが、設置のイメージとしては以下のように想定しています。ただし、あくまでイメージですので、今後の詳細検討により、変更が生じる可能性があります。



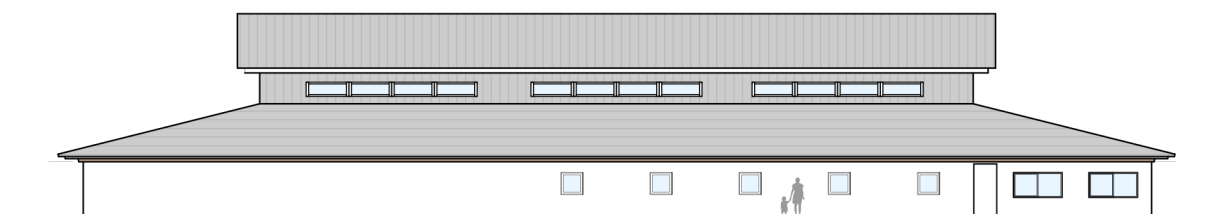
8. 立面計画 ※今後の検討により、一部変更が生じる可能性があります



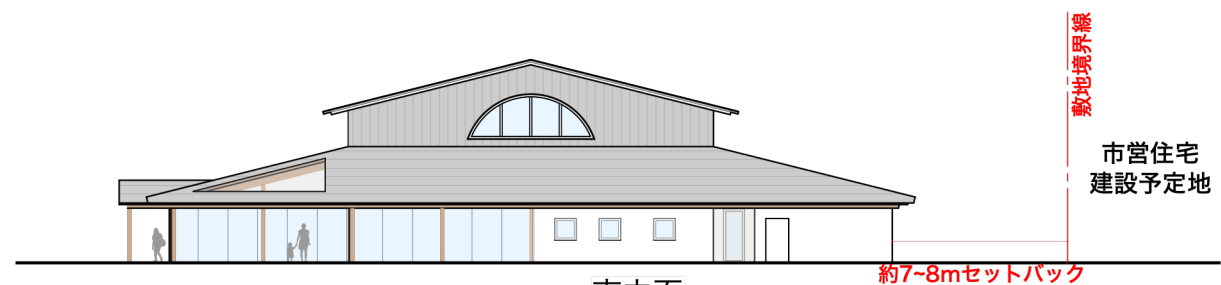
南立面



西立面



北立面



東立面

S=1/250

9. 南側鳥瞰外観イメージ ※今後の検討により、一部変更が生じる可能性があります



10. 概算建設費

	基本計画	基本設計			(参考) えんキッズ
	(R6 年度) 約 1,500 m ² 2 階建て	(検討段階①) 約 1,400 m ² 2 階建て	(検討段階②) 約 1,250 m ² 2 階建て	(本設計) 約 1,100 m ² <u>平屋建て</u>	(R2 年度) 約 1,500 m ² 2 階建て
建築工事費	5.64 億円	7.5 億円	6.4 億円	5.3 億円	5.4 億円
設備工事費	2.41 億円	3.8 億円	3.4 億円	3.0 億円	1.42 億円
外構工事費	0.57 億円	2.3 億円	2.4 億円	2.3 億円	0.83 億円
遊具	0.8 億円	0.8 億円	0.8 億円	0.8 億円	0.3 億円
備品	0.4 億円	0.4 億円	0.4 億円	0.4 億円	0.24 億円
合計	9.82 億円	14.8 億円	13.4 億円	11.8 億円	8.19 億円

基本計画時の建設費想定は約 9.8 億円であり、これは過去の他自治体における同規模施設の整備実績を参考とした目安です。基本設計では、建設資材等の物価上昇など、複数の要素を考慮して概算建設費を算出しています。

建設費が増加している主な要因は以下の通りです。

- 物価上昇

近年は、原油価格の高騰や円安などを背景に、鋼材や生コンクリートなどの建設資材価格が上昇しています。令和 3 年頃から現在にかけて、資材によっては約 20～50%程度価格が上昇しており、加えて人件費や運搬費の上昇も重なったことで、建設費全体が増加しています。

- 社会情勢の変化

中東情勢、とりわけイランを巡る国際情勢の緊迫化により、原油価格や海上輸送コストの上昇、物流の停滞などが懸念されており、建設資材価格に

も大きく影響を及ぼしています。今後も国際情勢や資材価格、為替動向等の変化によっては、工事費がさらに増加する可能性があります。

これらを踏まえ、検討段階では上記のとおり、「延べ面積 約 1,400 m² 2階建て」「延べ面積 約 1,250 m² 2階建て」「延べ面積 約 1,100 m² 平屋建て」と検討してきました。建築に係る事業費は 14.8 億円から 11.8 億円に圧縮しています。

【財源について】

下記の交付金や起債などを基本に、適切な時期に関係課や国県との協議を進めながら、可能な限り一般財源を削減します。

●国補助金…都市構造再編集中支援事業（国費率 1 / 2）

（※都市構造再編集中支援事業には、一ケ岡中央公園改修、市道一ケ岡 12 号線歩行空間高質化、市道一ケ岡 50 号線歩行空間高質化、一ケ岡第 2 街区公園四阿設置、市道一ケ岡 17 号線改良、市道石田南一ケ岡通線改良および提案事業「にぎわい・交流創出イベント（社会実験）の企画」などが含まれます。）

都市構造再編集中支援事業については、P 8 の二次元コードからご覧いただけます。

●起債（借入金）…公共事業等（充当率 9 0 %）、こども・子育て支援事業債（充当率 9 0 %）

●基金繰入金…森林環境譲与税、社会福祉事業基金繰入金

また、企業等から積極的に寄付を募り、地域に根差した施設となるような仕組みを確立していきます。

●企業等からの寄付

11.ランニングコスト

・想定される管理運営経費 83,141 千円

費 目	基本計画当時の 試算額（円）※2	今回の 試算額（円）	備 考
管理運営に携わる職員の 人件費	14,316,000	8,730,000	基本計画時、事務室の職員配置を4人と予定していたが、平屋建てへの配置変更や管理運営体制を見直し、2人配置で試算。
消耗品や通信費などの 事務費	1,430,000	1,058,200	全体費用 1,430,000 円をサービス事業との面積按分。 (1,430,000 円×814 m ² /1,100 m ²)
光熱水費	2,490,000	1,406,000	平屋建てへの配置変更など延べ面積減少による削減。 全体費用 1,900,000 円をサービス事業との面積按分。 (1,900,000 円×814 m ² /1,100 m ²)
印刷製本や使用料などの 事業費	1,723,000	1,275,020	全体費用 1,723,000 円をサービス事業との面積按分。 (1,723,000 円×814 m ² /1,100 m ²)
保守管理料、委託料などの 管理料	3,342,000	7,500,000	空調・電気・給排水設備等の保守点検や法定点検に加え、清掃費や警備費等の業務委託料を試算。委託内容が具体的にになった段階で内容を精査する。
小 計	23,301,000	19,969,220	
一般管理費	4,700,000	4,100,000	上記合計額に、国の積算基準に基づき、算出したもの (100,000 未満の端数切り捨て)
計	28,001,000	24,069,220	
病後児保育事業	10,797,000	9,061,000	国庫補助基準額による (区分変更による減額)
利用者支援事業	7,730,000	7,991,000	国庫補助基準額による (補助単価の上昇)
子育て・発達・ことば相談	3,279,000	3,279,000	
一時預かり事業	5,947,000	6,802,000	国庫補助基準額による (補助単価の上昇)
児童育成支援拠点事業	5,188,000	17,308,000	事業内容の拡充 (市の単独事業から国庫補助基準額による事業への変更)
地域子育て支援拠点事業	14,122,000	14,630,000	国庫補助基準額による (補助単価の上昇)
合計	75,064,000	83,140,220	

※2 基本計画当時の試算額については、基本的にえんキッズを参考に試算したのですが、児童育成支援拠点事業については、えんキッズでは実施していないため、教育委員会におけるオアシス教室支援事業を参考に計上しました。

- ・ ZEB Readyによる省エネルギー化とランニングコストの低減

本施設では光熱費を抑え、ランニングコストの低減につなげるため、建築・電気・機械設備の各分野において省エネルギー化を図ります。屋根・外壁の高断熱化や LED 照明、省エネルギー制御、高効率空調機、全熱交換換気設備、ヒートポンプ給湯設備等を導入し、一次エネルギー消費量を 50% 以上削減する ZEB Ready の性能を確保します。これにより、一般的な省エネ仕様の建物と比較して約 15～20%程度の省エネルギー化を図り、電気料金を抑えることで、継続的なランニングコストの低減につなげます。

また、宮崎県の恵まれた日射条件を活かし、屋根上に 75 枚程度の太陽光パネルを設置し、約 33kW の発電容量を確保する計画としています。発電した電力を施設内で活用することで、購入する電力量を抑え、さらなる光熱費の削減と環境負荷の低減を図ります。

- ・ 想定される管理運営経費「83,141 千円」について

P16「想定される管理運営経費」表の「今回の試算額 83,140,220 円」はあくまで最大の額で表記しています。

上記の通り、ZEB Ready による省エネルギー化や太陽光パネル設置により、光熱水費は想定よりも少額となる見込みであり、また、想定されるサービス経費については、国基準を採用し最大値を計上しており、実績によって経費は下がることもあります。

・ 想定される財源内訳

室名称：	配置人員：		実施事業：	財源内訳		
				※（）内の数値は、基本計画当時の試算額		
				国費	県費	市費
事務室	所長	1	管理運営	—	—	(28,001,000)
	専任事務職員	1				24,069,220
病後児保育室	看護師	1	病後児保育事業	(3,599,000)	(3,599,000)	(3,599,000)
	保育士	1		3,020,000	3,020,000	3,021,000
相談室・休憩室	保健師・心理士・社会福祉士・保育士などの専任職員	2	利用者支援事業	(5,153,000) 5,327,000	(1,288,000) 1,331,000	(1,289,000) 1,333,000
			子育て相談 発達相談 ことばの相談	—	—	(3,279,000) 3,279,000
一時預かり保育室	保育士	2	一時預かり事業	(1,982,000) 2,267,000	(1,982,000) 2,267,000	(1,983,000) 2,268,000
こどもの支援 ココットルーム	支援員	1	児童育成支援拠点事業	(－) 5,769,000	(－) 5,769,000	(5,188,000) 5,770,000
キッズルーム	専任職員	2	地域子育て支援拠点事業	(4,707,000) 4,876,000	(4,707,000) 4,876,000	(4,708,000) 4,878,000
多目的ホール	(事務室、相談室と兼務)	(事務室、相談室と兼務)		—	—	—
図書・学習室、 フリースペース			—	—	—	
計：		11		(15,441,000) 21,259,000	(11,576,000) 17,263,000	(48,047,000) 44,618,220
合計：				(75,064,000) 83,140,220		

12. 人員配置

基本的には下記のとおり職員を配置しますが、例えば病後児保育事業利用者がいない場合、他事業の配置に就くなどの弾力的な運営を目指します。

【事務室（受付）】施設長 1 名、事務職員（選任） 1 名）

受付対応については、事前登録等の仕組みを活用することで、人による対応を最小限とし、効率的な運営を行うことを想定しています。

【相談室】保健師・心理士・社会福祉士・保育士など 2 名

相談支援はもちろんのこと、ヤングケアラー支援なども想定し、専門員の配置を想定しています。常時 2 名が相談室に在室することは想定していませんが、相談内容や利用状況に応じて、必要な専門職が対応することを想定しています。

【病後児保育室】看護師 1 名、保育士 1 名

病後児保育を実施するにあたり、国の定める基準にて運用します。

【一時預かり保育室】保育士 2 名

一時預かり保育を実施するにあたり、国の定める基準にて運用します。

【多目的ホール】管理スタッフ 1 名

こども達の見守りや利用時間の管理を行います。

【キッズルーム】管理スタッフ 2 名

保護者の見守りを基本としますが、異年齢のこども同士による衝突やトラブルの防止、またキッズルーム内の備品や遊具等の衛生管理を行います。

【図書・学習室、フリースペース（不登校支援スペース等を含む）】

利用者の年齢や活動内容を踏まえると、自主性を尊重しつつ、必要に応じて見守りや声かけを行う体制が必要と考えています。こども達の年齢に近い学生ボランティア等の関わりも含め、適切な人員配置が必要です。

【こどもの支援ココットルーム】管理スタッフ 1 名

不登校生やヤングケアラーなど、学校に通いづらさを感じる子の「心がホッとする場」を提供し、精神的な支えや居場所となるよう、教育と福祉の両面から支援していきます。施設全体は指定管理者制度にて管理運営をおこないますが、適切な専門的サポート体制を構築するため、別管理も念頭に運営方法を検討します。

【施設全体】

施設全体の主要エリアや運動場などにはカメラを配置するなど利用者の安全管理を徹底します。

13.実施設計に向けた検討課題

・駐車場計画、外構計画

今後の詳細な検討により、車両出入口の位置や道路との接続勾配に影響が生じる可能性があります。そのため、これらを踏まえ、駐車場台数や外構計画について実施設計において詳細な検討・調整を行います。

・ZEB Ready 達成のための詳細な検討

基本設計では ZEB Ready の達成に向けた方針を整理しましたが、実施設計では設備機器の制御方法、や断熱性能などについても詳細な検討を行い、省エネルギー性能とライフサイクルコストのバランスを踏まえた計画とします。

・こども施設としてのあるべきディテールの検討

こどもたちが安全に安心して利用できる施設となるよう、家具や建具の納まり、コーナー部の安全対策など、使いやすさや安全性に配慮した細部の設計について、実施設計において詳細な検討・調整を行います。

14.スケジュール

今後の想定スケジュールは下記の通りです。

	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度
基本設計	準備	基本設計		
地質調査		地質調査		
実施設計		準備	実施設計	
建設工事			準備	建設工事
指定管理手続き				
管理運営			検討	3月運営開始▽ 準備

